

メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方（二年度）

ーピア・サポートを踏まえたO J Lを通してー

福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 黒澤 絵里香

1 研究の趣旨

福島県教育委員会の「令和2年度 福島県の教育」における小・中学校教員の年齢別構成比から算出すると、小・中学校において50歳以上の教員が教員数全体の約半数を占めており、大量退職・大量採用が続くことが予想される。教育を取り巻く環境も複雑化・多様化し、ベテランも若手も共に学び合っていく必要性が高まっている。そのような中、福島県の初任者研修においては、拠点校方式及び一人配置校方式に加え、令和元年度からメンター方式が導入されており、今後もメンター方式を導入する学校が増えることが見込まれている。第一年度研究では、初任者支援の視点を明確化できたことに加え、メンターチーム^{※1}による校内初任者研修がO J L^{※2}の要素を多く持つことがわかった。一方、多忙化する教育現場における新方式の導入にあたり、時間の捻出という課題が残された。

そこで、本研究においては、第一年度研究で得られた成果と課題を踏まえ、メンター方式導入校における初任者教員を支援するためのピア・サポート^{※3}を踏まえたO J Lを通して、メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方を探ることとした。

※1 初任者教員・若手教員・中堅教員・ベテラン教員等の教員が互いに学び合う中で、それぞれの教員が初任者教員に関わって指導助言する校内の教職員で組織されたチーム

※2 本研究においては「職場における、共感をベースとした研修や職務を通じて、個人と組織の成長を促す学び」と定義する

※3 同僚を支える活動

2 研究の概要

〈目的〉研究協力校のメンターチームによる、初任者の悩みや困り事に応じたピア・サポートを踏まえたO J Lを通して、初任者研修を充実させる校内研修の在り方を探ることを本研究の目的とする。

〈方法〉

- (1) 時間の捻出、初任者の悩みや困りごとの把握の仕方に工夫し、メンターチームによるピア・サポートを踏まえたO J Lを計画立案する。
- (2) 計画立案に基づくメンターチームによるO J Lの実践を通し、アンケートやインタビューからその変容や効果を検証する。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 校長の働きかけにより、教員のメンターとしての意識が醸成され、初任者支援の視点が浸透していることで、初任者が質問・相談しやすい職場環境が整っている。
- ② 自校の強みを生かし、核となる教員が連携しながら、時間の捻出や教員の負担軽減について工夫をした校内初任者研修の計画立案・実践がなされた。
- ③ ピア・サポートを踏まえた校内研修により、初任者の思いや願い・困り感等をメンターが引き出す対話型の研修が展開されることで、初任者への心理的・職務的支援につながっていることが確認できた。
- ④ 初任者教員や同僚教員の感想やインタビューから、初任者は校内研修で学んだことを自分の実践に生かし、ピア・サポートを踏まえたO J L が機能していることを把握することができた。

(2) 今後の課題

- ① ピア・サポートを踏まえたO J Lの実践を通し、校内研修の在り方を今後も探る。
- ② 研究協力校の初任者教員とメンターチームの教員への事後調査を行い、メンターチームによる校内研修の効果を検証する。
- ③ メンター方式による初任者研修の校内研修の事例をまとめ、発信する。